



**ILC グローバル・アライアンス
年次総会議事録 2012**



**カレル大学会議室、コンベンションセンター
プラハ**

May 26-28, 2012

【 出 席 者 一 覧 】

■共同議長

Dr. Monica Ferreira (南アフリカ)

Baroness Sally Greengross (英国)

■投票メンバー

Kavita Siva (アメリカ)

Kunio Mizuta (日本)

Francoise Forette (フランス)

Sally Greengross (イギリス)

Rosy Pereyra (ドミニカ共和国)

Monica Ferreira (南アフリカ)

Lia Daichiman (アルゼンチン)

Marieke van del Waal (オランダ)

Sara Caramel (イスラエル)

Susana Concorde (シンガポール)

Iva Holmerova (チェコ)

Alexandre Kalache (ブラジル)

Du Peng (中国)

Masako Osako (事務局)

■非投票メンバー

Yoko Shido (日本)

Shinichi Ogami (日本)

Marie-Anne Brieu (フランス)

Noreen Siba (イギリス)

Sebastiana Kalula (南アフリカ)

Angelique Chan (シンガポール)

Louise Plouffe (ブラジル)

■欠席

インド



5月26日(土)

◆◆共同プロジェクト会議◆◆



◇現行プロジェクト◇

ILC GAとしては初めての7か国に及ぶメンバーの協力によって行われた「理想の看取りと死に関する国際比較研究」について、日本より協力各国(フランス、イギリス、イスラエル、オランダ、チェコ、アメリカ)への謝意を表明するとともに、成果の一部を発表した。併せて今後の発展計画案も示した。

また、イスラエルより、世界の家族介護支援システムに関する研究の必要性が強調された。さらに、英国からは、各国ILCの協力により「各国における世帯構成および世代間関係の展望」を刊行したことが報告された。



5月26日(土)

◇提案プロジェクト◇

1. Active and Healthy Aging プロジェクト (報告者:日本・フランス)

「定年後の健康状態や活動状況、生活満足度についての国際比較調査」を提案。
協力可能な ILC で開始することが承認された。

2. 認知症プロジェクト (報告者:イギリス)

WHO も認知症の問題を大きく取り上げていることを受け、ILC GA でも今後とも積極的に取り組むべきとの方針が確認された。

3. 国際老年学会(IAGG)ソウル大会 2013 での発表について (報告者:イスラエル)

ILC GA としては、2つの国際シンポジウムを開催する予定。

* 終末期ケアについて (日本、イスラエル、チェコ、シンガポール)

* 生活習慣病予防について (ドミニカ共和国、アルゼンチン、南アフリカ、オランダ)

4. BRICS Countries Forum on Aging (報告者:中国)

ILC-China と中国老年学会の主催により、国際フォーラムを開催することが報告された。IFA 国際会議に先立って 5 月 27 日に ILC ブラジル、インド、中国、南アフリカのメンバーにロシアからのゲストを加え、「BRICS 諸国における高齢化の課題と政策」をテーマに行われた。

また、IAGG ソウル大会においては、「BRICS 諸国における所得保障と高齢化」をテーマに国際シンポジウムを開催する予定。

5. IFA 国際会議プレカンファレンス ILC GA 主催国際シンポジウム (報告者:チェコ)

5 月 28 日に ILC GA 主催で開催するプロダクティブ・エイジングに関するシンポジウムの成果を報告書として、刊行予定であることが報告された。

5月27日（日）

◆◇2012年度 I L C年次総会◇◆



1. 開会の辞：フェレイラ南ア理事長

共同理事長のフェレイラ南ア理事長から、年次総会への参加歓迎の挨拶と欠席国（インド）についての説明があった。

2. 2011年ライデン年次総会議事録

ライデン会議の議事録が、満場一致で承認された。

3. 事務局活動報告

国連関係活動および各種シンポジウム等出席等の活動報告がなされた。

4. 財政状況報告

昨年度の収支決算および今年度の収支予算状況が報告され、満場一致で承認された。

5. 今後の財政基盤について

ILC GAの財政ならびに組織体制基盤の整備・発展計画については、委員会を組成し、検討・提案していくことが確認された。

5月27日（日）

6. ILC GA ウェブサイト運営報告

ウェブサイトの更なる充実を目指し、ILC 各国より情報を定期的に送付することが提案された。

7. 地域組織の組成について

英国提案の「地域組織の組成」について討議した。

8. 国連との関係

国連 NGO への登録が完了。今後、国連プログラムへの参加や高齢者の権利に関する作業部会への参加の他、GA として必要に応じて他の国際団体と共同で声明支持などの行動をとっていくことが確認された。



5月27日(日)

9. 各国活動報告

14カ国の活動報告はアルファベット順で行われた。

日本は、フランスとの共同プロジェクトである Active & Healthy Aging プロジェクトへの協力を再度要請した。また、Profile of Older Japanese への言及とともに、「プロダクティブ・エイジングと健康増進に関する国際比較調査研究事業」を新規研究プロジェクトとして開始することを報告し、改めて長寿先進国日本の世界に対する役割の自覚を表明した。

10. 組織体制と手続き

従来の規約を見直すための検討委員会および次期（2013-16）共同理事長の選出のための検討委員会が組成された。

11. 今後の年次総会について

2013年6月19日～21日 於：シンガポール

*国際シンポジウム開催予定 テーマ未定



5月28日(月)

◆◇ILC GA 主催国際シンポジウム◇◆

「プロダクティブ・エイジング」

◇第1部 ロバートバトラー博士メモリアルレクチャー◇

議長: Iva Holmerova (チェコ共和国)

*開会挨拶

*第3回 ロバート・バトラー博士メモリアルレクチャー

「プロダクティブ・エイジング - 21世紀の緊急課題」

- Alexandre Kalache (ブラジル)



◇第2部 各国におけるプロダクティブ・エイジングの現状と課題◇

議長: Dr Rosy Pereyra (ドミニカ共和国)

*プレゼンテーション① (フランス、日本、イギリス)

- Françoise Forette (フランス)、水田邦雄 (日本)、
Baroness Sally Greengross (イギリス)



先進3カ国の報告では、高齢者が健康で社会と関わり続けるために何が必要かについて、それぞれの国の状況や課題が示された。特に日本の就労や社会参加の具体的な例やメタボ検診などの試みは、興味と関心をもって受け止められた。

5月28日(月)

*プレゼンテーション② (中国、インド)

- Du Peng (中国)、Jayant Umranikar (インド)

*プレゼンテーション③ (イスラエル、シンガポール)

- Susana Concorde (シンガポール)、Sara Carmel (イスラエル)

*プレゼンテーション④ (チェコと CEE (Central Eastern Europe) 諸国)

- Iva Holmerova (チェコ共和国)



議長: Baroness Sally Greengross (イギリス)

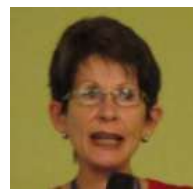
*プレゼンテーション⑤ (アルゼンチン、ドミニカ共和国、南アフリカ、オランダ)



Lia Daichman
(アルゼンチン)



Rosy Pereyra
(ドミニカ共和国)



Monica Ferreira
(南アフリカ)



Marieke van der Waal
(オランダ)

5月28日(月)

*質疑応答 司会：Alexandre Kalache（ブラジル）

会場の参加者からは、特に高齢者の就労の現実についての様々な事例が紹介された。現実的には就労の機会がなかなかないこと、また現在就労中の高齢者に対しても、若年層の雇用促進を理由にして退職が強要されていることなどが、残念な報告として挙げられた。

このような厳しい現実があることは事実だが、高齢期であってもその能力を十分活用できるという実証を積み重ねていくことで、意識改革を図る必要があることを確認した。



